

このたび、アメリカ内科レジデンシーに二度目の挑戦でマッチすることができました。初年度での挑戦でマッチできなかった後に ACE でインタビュープラクティスを受講したレッスン経験談を記載させていただければと思います。

アメリカのレジデンシーマッチングは年々厳しくなったと言われ、USMLE の点数が良くてもインタビュー数を確保し、インタビューを突破するのは困難です。私自身、初年度の挑戦でいいパフォーマンスができなかったプログラムからは翌年のインタビューには呼ばれませんでした。

私は、初年度に不十分な対策でインタビューを迎えてしまいましたが、自身の経験から言えるのは、ACE で Cohen 先生の素晴らしいインタビュープラクティスを受講すると、マッチの可能性は格段に上がるということです。正直に言うと、これまで ACE 以外でアメリカ人にインタビュー指導をしてもらったことがあります。しかし、ACE の Cohen 先生が最もマッチに私を近づけてくれたと思います。

Cohen 先生の指導で目から鱗だったのは、日本の“面接”とアメリカの“インタビュー”は文化的に異なるもので（先生ご自身、日本語が流暢で文化や非言語的コミュニケーションもご存知です）“インタビュー”に適した振る舞いのできない日本人は、アメリカにいる IMG/AMG より不利な立場にいるということです。Cohen 先生のレッスンは、英語だけではなく、インタビュー突破に不可欠である、文化的背景の知識や根本的な振る舞い方などパフォーマンスの重要な土台となる要素の指導から始まります。これを理解するためだけでもレッスンを 1 度受ける価値はあります。

もちろん、その後の模擬インタビュー指導も素晴らしいです。一例にすぎませんが、①典型的な質問に対する回答をアメリカ人のプログラムディレクターの価値観に照らし合わせて好まれる回答か細かくチェック、②ビデオ撮影でのパフォーマンスフィードバック、③私の英語を書き起こして、ビデオでは分かりづらい悪い癖を認識させる・・・等々、インタビュー指導に期待できることはすべて含まれており、至れり尽くせりでした。

最後に、レジデンシーマッチングは、インタビューが最重要の断定基準であり、いいパフォーマンスをしないと永遠に受かりません。インタビューでの倍率も 10 倍程度あります。また、インタビューは、英語の試験ではありません。多くの日本人はこの現状を知らず、危機感がないのが悲しい限りです。一人でも多くの日本人米国留学志望者が、Cohen 先生のレッスンを経験され、一人でも多くの日本人がマッチされ、日本の医療にアメリカの医療の素晴らしい点が還元されることを願ってやみません。

